

# 日本文学科 現2・3年生対象

## 令和3年度開講「演習」仮シラバス

### 【日本語学演習】

※曜日・時限は予定ですので、変更になる可能性があります。

開講学年	応募科目名	担当者	曜日	時限	ページ
3・4年	日本語学演習Ⅱ	小田 勝	月	6	2
	日本語学演習Ⅱ	竹部 歩美	水	3	2
	日本語学演習Ⅲ	三井 はるみ	火	6	3
	日本語学演習Ⅲ	諸星 美智直	木	3	3
	日本語学演習Ⅲ	吉田 永弘	木	6	4

# 【日本語学演習Ⅱ】

【科目名】日本語学演習Ⅱ	【開講学年】3・4年	【曜日】月曜
		【時限】6限
【教員名】小田 勝	【登録番号】0000	
【テーマ】古典文法の研究、文語の和歌表現の研究		
<p>(演習内容) 百人一首を用いて、古典文法の演習を行う。併せて、文語の和歌表現についても理解を深める。1人4首を割り当てる。演習内容は次の通り。担当の各歌について、(1) 本文を整定する。和歌に句読点を打つ。(2) 正確に読解する。(3) 教科書掲示の古注について、吟味する。(4) 語法上の問題、和歌表現上の問題を自ら見出し、調査・研究して発表する。</p>		
<p>(評価方法) 発表内容(辞典・索引・諸注・諸文献の利用度、古典文法・表現に対する探求心、正確に読解しようとする真摯な姿勢)。およびレポート(発表後、問題点に対する自分の意見を構築し、発表レジュメ改訂版を提出する)。</p>		

【科目名】日本語学演習Ⅱ	【開講学年】3・4年	【曜日】水曜
		【時限】3限
【教員名】竹部歩美	【登録番号】0000	
【テーマ】中古語の研究：源氏物語の日本語学的読解		
<p><b>【演習内容】</b></p> <p>○『源氏物語大成校異篇』本文を資料として平安時代の日本語の考察を行う。</p> <p>○授業は参加者による発表形式で進行する。参加者に一定の調査範囲を割り当てる。発表者は以下の作業を行って発表に臨む。</p> <p>(1) 本文の整定…漢字仮名交じり表記にする、清濁・会話文・地の文・心内文を識別する、句読点を施す、などをして本文を作成する。</p> <p>(2) 逐語訳…語彙語法に細心の注意をはらいながら精確な現代語訳を行う。</p> <p>(3) 問題点の考察…先行研究を参照したり、索引を利用して類例を調査したりしながら、(1)(2)の作業の過程で問題となった事柄について考察を深める。</p> <p>○発表者以外の者は予習(逐語訳)をして質疑や討論に臨む。</p>		
<p><b>【評価方法】</b></p> <p>次の2つの合計が60%以上の者を合格とする。</p> <p>1、発表…50%</p> <p>調査量と理解力を重視し、要求される水準に達しているかを見る。</p> <p>予習(逐語訳)・討論への参加などはここに含む。</p> <p>2、レポート…50%</p> <p>発表を踏まえて上記(3)を発展させることができているか、小論文としての質と体裁が適切であるかを見る。学年末に提出する。</p> <p>3、欠席が授業実施回数の1/3以上の場合は評価対象外とする。上記(1)(2)を行ったとしても、評価はしない。</p>		

# 【日本語学演習Ⅲ】

【科目名】日本語学演習Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】火曜
【教員名】三井 はるみ	【登録番号】0000	【時限】6限
【テーマ】社会言語学文献講読と調査研究		
<p>(演習内容)</p> <p>集団語、敬語、ことばのジェンダー差、ことばの「誤用」など、身の回りのことばをめぐるトピックは、興味深い話題として人々の関心を引きつける。一方で、そのような目に付く現象を、言語的、社会的背景の中で理解し、読み解くためには、一定の手順によるデータの収集とその分析が必要となってくる。本授業では、主として社会言語学的なテーマについて、研究対象の設定、先行研究の探索、資料、データ収集法、分析法など、言語研究に必要な方法論を学ぶ。前期は論文講読。指定した研究論文を受講者各自が担当し、報告・討論を行う。後期は小研究発表。各自がテーマを定めて小調査を行い、発表する。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>発表内容とレポートによって評価する。発表は前後期各1回担当し、それぞれについてレポートを提出する。</p>		

【科目名】日本語学演習Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】木曜
【教員名】諸星 美智直	【登録番号】0000	【時限】3限
【テーマ】ビジネス言語学（文書・会話の語彙・語法）と近代敬語の研究		
<p>(講義内容)</p> <p>少子化とグローバル化により異文化共生の時代となりつつある現代社会で生き抜くためには、教職に関しては国語教育と日本語教育の両方に対応できる人材、企業については国際交流を視野に入れた経済活動に役立つ言語能力を習得することが就職力を強めることになる。そこで、[前期]は、現代のビジネス文書及び経済小説・企業ホームページを資料として、ビジネス敬語・語法・語彙を中心に①通時的、②共時的、③対照言語学的、④ポライトネスなどの方法によって、例えば「～いただけますようお願い申し上げます」のような揺れ動くビジネス敬語の実態を解明する。[後期]は近代日本語（近世～現代）の研究テーマの概要を述べた後、近代の小説・速記録・日本語教科書等を資料として、近代敬語の変遷を分析する。日本文学科の就職先としてサービス・卸・小売りが多く、また就活支援に力を入れている金融・製造・公務員等の進路に益することを考慮して、敬語研究を重視するとともに実践的な業界・企業研究を兼ねた就活に強い「ビジネス言語学」の構築を目指している。これは同時に日本語教育学における学習者の主要なニーズでもある。前・後期とも、講座担当者による解題と先行研究の紹介のあとは、受講者による研究発表の形式で進めて行くので、活発な質疑応答の場となるよう望む。なお、随時、日本語学・日本語教育学の関連学会の情報を紹介する。卒業論文の履修者には履修を勧める。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>単位レポートによる。</p>		

【科目名】日本語学演習Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】木曜
		【時限】6限
【教員名】吉田永弘	【登録番号】0000	
【テーマ】中世日本語の研究		
<p>(演習内容)</p> <p>キリシタン資料の『天草版平家物語』をとりあげて、中世末期の日本語を学習する。はじめに担当教員が演習の方法を解説した後、各自担当箇所の調査・報告を行う。発表を経て、問題点をさらに追究し、レポートにまとめる。</p> <p>以上の作業を通して、中世日本語が古代語から近代語への流れの中にあることを理解しながら、日本語の史的研究の方法を身につける。あわせて、発表する力・レポートを作成する力を養う。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>発表 50%、レポート 50%。</p>		